令和５年度　福井県立嶺南西特別支援学校　学校関係者評価書

（問）

（１）「具体的取組」の項目は妥当か。

（２）本校教員は「成果と課題」を適切に把握しているか。

（３）「改善策・向上策」は実効性のあるものか。

（意見を聞いた方）

藤田　盛一　　氏（若狭ものづくり美学舎　管理者　　福井県立美方高等学校　元校長）

村上　美恵子 氏（ＮＰＯ法人福祉ネットこうえん会　相談支援センター若狭ねっと　管理者）

伊藤　哲男　　氏（福井県立嶺南西特別支援学校　ＰＴＡ会長）

教育課程 学習支援 研究研修	（１）妥当である。 ・個々の学部においては，もう少し具体的表現がなされてもよい。（後述） ・生活年齢に応じた対応と発達段階に応じた学習場面の設定は別なので具体的にどうなのか，その共通理解が本当にできているのか押さえるべきである。 ・学年だけによる支援方針分けができない部分もあるので，個人の特性に合わせた授業・支援をこれからもお願いしたい。 （２）個々のレベルに合わせた教材の選定がなされていて，個人ごとの充実した支援ができていた。 （３）幼小から高等部までと幅広い世代と様々な個性あふれる生徒が集う支援学校なので，これからも個々を優先した支援を継続していけるように教職員間のノウハウの蓄積と継承，また校内と校外の連携をお願いしたい。
教育課程 学習支援 研究研修 小学部	（１）妥当である。一人一人の実態や支援方法について，学校の視点だけでなく，福祉サイドの視点も積極的に取り入れてほしい（トラブルがあった時だけでなく，平時からの支援会議の必要性）。「発達段階に応じた」をどう表現していくか，より細かなステージ（段階）を踏まえるとすれば，評価を具体的にするためにもう少し表現に工夫が必要ではないか。例えば必要最小限の支援→？ （２）過度な言葉がけや補助をなくすことが成果につながっている。学部会での共通理解は重要であると考える。課題であった個々の特性把握と共有もできているように見受けられる。 （３）個の特性の理解と共有を早期に行い，小学部という「伸びしろ」の大きな年齢への自立志向的支援を継続してほしい。
教育課程 学習支援 研究研修 中学部	（１）妥当である。評価を具体的にするためにもう少し表現に工夫が必要ではないか。例えば生徒自身が考える場，主体的に行動する→？ （２）個の特性に応じた学習と生活指導ができていた様子で，生徒の自主性も伸ばせていた。また，保護者と学校の取組方針についても情報共有できていたように感じている。 （３）主体的に行動する力を引き出す授業は周到な準備が必要で重要であると考える。生徒により様々だが，過負荷となり過ぎないように目標設定して授業してもらいたい。個々の生徒に対する学校の方針と保護者との思いが食い違い過ぎないように，すり合わせて理解してもらうことが必要である。
教育課程 学習支援 研究研修 高等部	（１）妥当である。発表の場があり，目標と使命感のある活動は高等部では大切であると感じている。「発達段階に応じた」をどう表現していくか，より細かなステージ（段階）を踏まえるとすれば，評価を具体的にするためにもう少し表現に工夫が必要ではないか。例えば発表の場，使命感→？ （２）生活全般における役割に責任をもって活動できた成果は素晴らしいと考える。個人差がますます顕著になる年代なので，さらなる個別支援化に注力して授業が実施してもらえるとよい。 （３）卒業後の豊かな生活を想定するということはとても重要である。どうしても行動が自己中心的に見られがちなので，作業等のおりに自然に協調性を学ばせることができるとよい。卒業後の進路に不安を抱えている保護者が多いので，情報収集・情報提供・関連機関との密接な連携が行えるとよい。
生徒支援	（１）妥当である。「実態に応じた」という目標は今や大前提で当たり前過ぎる感じがする（表現の仕方）。５月の開催はよかったが，今年度は小１がいなかった。令和６年度は入学生も多いので，負担にならないようにしていくべきである。 （２）一般世間の風潮に流されず，その都度様子を見ながら安全対策を講じて行事等の活動を行えていた。昨年に引き続き，動画による配信があったことは大変よかった。 （３）児童生徒は，健常者よりも思いやりが深いと思うが，一方で「かんしゃくを起こしやすい」面もあるので，衝突やいじめから人嫌いに結びつかないように早期対応を心がけてもらいたい。
進路支援	（１）妥当である。個々の目標を意識した実習は大切である。実習先は学校での作業を常に見て適性を把握している教職員からの提案をお願いしたい。 （２）希望する職種の実習先を増やしたり，卒業生の働く様子を見たりすることはよい成果につながっている。当地の景気状況と将来の IT 化から多くは望めないかもしれないが，受け入れ実習先が卒業後の就労先として繋がるように「働ける障がい者への理解」として広まればよいと思う。 （３）情報収集や発信はとても重要である。地元だけでなく，県内や近隣府県などにも範囲を広げていってもよいのではないか。年ごとに改定されている福祉制度も「多数派の高齢者向け」が主となっているので「障がい者（児）」に対しては？「障がい等級」の違いによってはどうか？など，情報提供の手段として定期的に講演を行うのもよいのではないか。
保健管理	（１）妥当である。日常生活での習慣化はとてもよいと思う。 （２）感染対策指導は，行政アラームがなくても習慣として子供たちに根付かせることがよいので，継続していくとよい。セルフケアの必要性，体調の変化を自覚して訴えることができることは大切だと考える。 （３）食事により身体はできているので，これからも「食事はおいしく楽しみなもの」と思えるようにお願いしたい。
ＰＴＡ連携	（１）妥当である。地域との交流や地域への発信，会員への報告や発信も重要で適切である。PTA 活動において，保護者の積極性がうかがえる。 （２）様々な交流や内容，丁寧な情報発信がなされていてよい。父・母・子の区別なく，多くが参加できる日程・内容・趣旨で企画運営ができていた。ただ，スケジュールが少し過密になったことは，今後検討が必要である。 （３）行事，イベント等の活性化と精選，対象者の限定や実施時期の整理など細部への検討が必要である。新型コロナ感染症が５類になり，以前に戻そうとする風潮が見られるが，子供と家族の負担過多にならないように行事の調整は必要である。
総評	・保護者や教職員とも非常に高い評価で，教育活動や学校運営の充実度がうかがえる。 ・いくつかの項目で保護者９０%，教職員１００%の結果が見られるが，このギャップをどう捉えるのか。次の目標や課題が見える評価になるとよい。教職員の自己評価はすべて１００%の結果をどう考えるのか。目標設定や具体的取組の内容，表現の検討も必要ではないか。 ・顧客満足度（CS）と従業員満足度（ES）という捉え方では，「ES なくして CS なし」であり，ES の向上なくして CS の成果は得られないということである。ES の向上が CS の向上につながるので常に意識していく必要がある。 ・子供たちが「学校が楽しい」，卒業生が「学校楽しかった」と思える学校であってほしい。 ・児童生徒たちに対する支援や学習の体制はよくできていると感じている。（特に小学部に入りたての）保護者が抱えている不安に精神的ケアなどの対応をしてもらえるとありがたい。 ・また，時間的余裕のない保護者がない中で PTA 役員の選出が難しくなってきている。PTA 役員の保護者の中では，役員職（特に会長）に多大な負担があると思われている状態も感じているので，現行の学校側のサポート体制（夜間会議時間の託児・担当教員の協力）があることを会員に周知させていくことが必要ではないか。 ・特別支援と個別支援の（この学校なりの）定義について共通理解を図るとよいと思う。
学校関係者評価を踏まえた今後について	・評価者の方々からいただいた評価や意見等を教員全体でしっかりと共通理解し，次年度のスクールプランをはじめ学校経営に確実に反映させる。 ・教職員の協力と協働により，専門性の向上をはじめ教育機能の充実に一層力を入れ，保護者や地域住民等からの信頼と期待にしっかりと応えていく。